練馬区が進める　小中一貫教育の取組

9年間を見通した教育へ

平成23年４月に開校した、施設一体型小中一貫教育校「大泉桜学園」では、小学校・中学校がひとつの学校として、９年間を見通した教育を行っています。

こうした施設一体型小中一貫教育校を数多く開校することは難しい状況です。

今後は、校舎が離れている小学校と中学校においても、９年間を見通した教育を行うため、小学校と中学校が連携・協力して「小中一貫教育」の実践を進めます。

小中一貫教育で学習面の連携を

これまでも、小学生と中学生が交流するなど小中連携の取組を進めてきました。

小学校から中学校へ進学する子供たちの多くが「勉強」に対する不安を抱えていることから、今後は、子供たちの交流などに加えて、教科などの学習面でも連携を深め、小学校から中学校への進学を滑らかにしていきます。

子供たちの交流

●小学生と中学生の交流を進めます。

中学生が小学生に
本の読み聞かせ

小学生が中学校の
部活動体験

小学生と中学生が
合同で地域クリーン運動

中学生がリトルティーチャー
として小学生の学習を補助

●中学校と通学区域が重なる小学校同士の交流も進めます。

先生たちの取組例

●小中学校の先生が合同で授業研究を行って教え方を工夫したり、子供たちの学習面の課題を克服するカリキュラム（指導計画）を共同で作成したりします。

●ノートの取り方、板書の仕方、話し合いの進め方などについて、小学校での指導が中学校の指導へつながるように研究します。

●「表現力の育成」「心の教育の推進」「体力の向上」「キャリア教育の推進」について、小中学校共通の資料を用いて授業を行います。

●特別な支援を要する子供たちについて、小学校から中学校へ支援を継続させます。

●小中学校の先生が一緒に小学生や中学生を教える授業を取り入れます。

●教科ごとに先生が異なる中学校の教え方に慣れるため、小学５・６年生の授業で、担任以外の先生が教える教科を増やします。

小中一貫教育　Q&A

Q１　小中一貫教育を実践している小学校に入ると、連携先の中学校に進学しなければならないのですか。

A１　通学区域の指定や学校選択制の利用により、連携先以外の中学校に進学することができます。

Q２　小中一貫教育を実践している小学校の子供は、連携先の中学校が指定中学校でなくても、学校選択制で優先的に入学できるのですか。

A２　小中一貫教育校「大泉桜学園」以外の小中一貫教育実践校・連携校では、小中一貫教育を理由として優先的に入学できる仕組みはありません。

Q３　同じ中学校へ進学するのに、小中一貫教育実践校と連携校の小学校があると、学習状況に差が生じてしまうのではないですか。

A３　各小学校の状況に応じた取組が行われますが、学習指導要領に準拠して小中一貫教育を進めますので、学習内容や進度に差は生じません。

Q４　せっかく小中一貫教育を実践しても、連携先以外の中学校に進学したら意味がないのではないですか。

A４　連携先以外の中学校へ進学する場合でも、小学校の先生から９年間を見通した学習指導を受けたり、中学生との交流で中学校生活を理解したりすることにより、中学校生活へ滑らかにつながると考えています。

義務教育９年間の学びの考え方

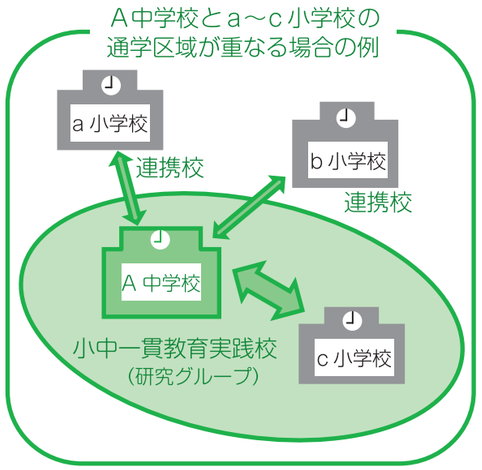
練馬区の小中一貫教育では、義務教育９年間の教育課程を「小１～小４」「小５～中１」「中２・中３」の３つのまとまりでとらえ、それぞれの時期に応じた「学び」を進めます。

Ⅰ期（小１～小４）				Ⅱ期＜接続期＞（小５～中１）			Ⅲ期（中２・３）	
具体的な物を通して考える時期				論理的・抽象的思考へ移行する時期			論理的・抽象的思考を充実させる時期	
小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３

小中一貫教育を進める小中学校の組合せ

小学校と中学校の通学区域が複雑に重なる地域があるため、通学区域が重なる小中学校のなかで、中学校１校と小学校１～３校の組合せを決めて、子供たちの交流や学習指導上の連携を進めます（小中一貫教育実践校）。中学校と通学区域が重なる他の小学校も、子供たちの交流などを行いながら、小中一貫教育実践校の取組の成果を自校の教育活動に反映させます（連携校）。

小中一貫教育実践校となる小中学校の組合せは固定的なものではなく、中学校と通学区域が重なる小学校のなかで、年度により連携先を増やしたり変えたりしながら取組を進めていきます。



練馬区の小中一貫教育　３つの形

小中一貫教育校（大泉桜学園）	小学校と中学校をあわせて、ひとつの学校として小中一貫教育を行います。
小中一貫教育実践校（研究ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	中学校１校と小学校１～３校の組合せで、子供たちの交流や学習指導上の連携を実践します。
小中一貫教育連携校	中学校と通学区域が重なる、小中一貫教育実践校以外の小学校です。子供たちの交流などを行いながら、実践校が作成したカリキュラムや指導案などを参考にして、学習指導上の連携も進めます。